

Apartmentふう

Apartmentふうは、木造の良さを生かした落ち着いた空間です。

自然素材でできた建物の心地よさは、他に代えがたいものがあり、人間が本来持っている五感に働きかける力があります。

建築家：泉幸甫

1947熊本県生まれ。

日本大学大学院修士課程修了、千葉大学後期博士課程修了。博士(工学)。

1977泉幸甫建築研究所を設立。2008～日本大学教授。

1999[Apartment 傳(でん)]で東京建築賞最優秀賞受賞、2004[Apartment 鶉(じゅん)]で日本建築学会作品選奨受賞。

著書に[建築家が作る理想のマンション]。[新建築][住宅特集][住宅建築]など掲載誌多数。

Apartmentふうは、多くの特徴を持っています。具体的には・・・

■1 Apartmentふうは、外壁に「MOISS」* という優れた材料を使っています。

火災に対する耐火性能はもとより、地震に対する耐震性能も、実証されています。

その外側には、木ズリという板(通常より厚い18mm)を斜め方向に貼り(斜めにする事で耐震性能を更に高める効果あり)、その外側を、自然の材料を使った左官壁で仕上げています。

この左官壁**は、自然の風合いの感じられる掻き落とし仕上げとし、みどりの映える、白に近い色を基調としました。

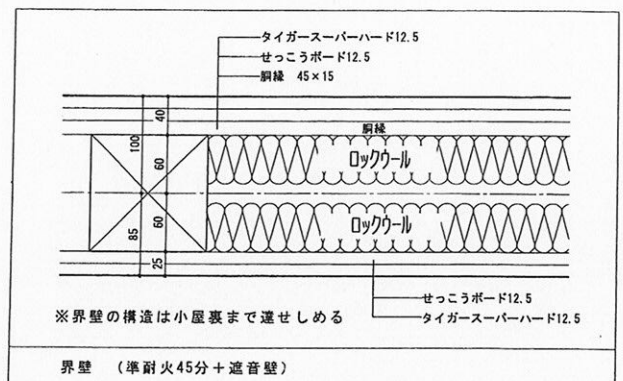
*三菱マテリアルの繊維混入けい酸カルシウム板

**左官職人・小沼充(とその仲間職人たち)による施工

■2 Apartmentふうは、住戸と住戸の間の壁(界壁)を、しっかりと造っています。

例えば、壁の中には、ロックウールを2重に入れてあります。

その両側には、通常の石膏ボードを設置し、さらにその両側に、スーパーハードという、とても固い石膏ボードを設置するなど、木造としては、かなりしっかりと造り込みをしています。



■3 Apartmentふうは、空気の流れを大切にしています。

各住戸は、2面もしくは3面に開口部を設けて、採光に加えて、自然の空気が流れやすくなるように配慮しています。敷地内にふんだんに設けられたオープンスペースからは、心地良い風が流れ込みます。

もう一つ、見た目にはわかりませんが、■1のMOISSと左官壁の間は、木ズリに沿って細い空間があって、空気が流れる仕組みになっています。屋根の裏側も同様で、日差しで暖められた空気は、屋根裏にこもらずに、なるべく外へと抜けるようになっています。

この空気の出入り口は、軒下のほか、外壁の下端にもあって、その網目を手で触れてみる事ができます。

